

平成28年度 事業報告書

社会福祉法人 伯方福祉会

1. 概要

平成28年度は、介護職員を含む職員の離職等による減少や、インフルエンザの施設内集団感染等もあり、入所者の員数制限等も行い不安定ながらも施設運営への影響を最小限に抑えた。

支出される経費については、老朽化した空調設備の更新、職員及び入所者の実情に合わせて機械浴槽の導入等があったものの、種別ごとに最小限度に節約をし、その事によって利用者介護に支障がないように努めた。また、職員自らが主催した勉強会、各種団体の開催する研修等に積極的に参加して、職員の専門性、資質向上を図り利用者へのサービス提供を行った。

会計業務については、社会福祉法人の『会計基準』に沿って、財務会計、介護報酬の請求、利用者の預貯金管理等、円滑な事務処理を行うことができた。

2. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

定員50人の入所状況は、利用者本人又はご家族の意向に沿い、出来る限り施設内での終末期を迎えられるように支援していきましたが、介護職員の欠員の補充状況や、インフルエンザ施設内集団感染等もあり、常時満床にはできなかった。

特に下記事項については職員の共通理解として取り組んだ。

（1）介護現場における「身体拘束ゼロ作戦」について

取り組みとしては、身体拘束廃止検討会にて定期的に検討を行い、対策や改善、やむを得ず拘束を実施する際の検討と経過検討を行った。

更に、高齢者虐待防止法に基づき、不適切なケア及び応対の予防のために、外部講師を招くなどして意識改革や啓発にも努めた。

（2）個別ケアに向けての対応について

利用者に落ち着いた居室の提供、利用者の生活リズムに合わせた介護の提供をする目的にグループケア（ユニットケア）方式を導入しているが、体制変更に伴いグループを3班から2班へ再編成して、職員5～6人が介護にあたり、状態の変化への対応や細やかなニーズに対応ができるよう努めた。

（3）感染症対策について

『感染対策委員会』を中心に、感染予防と拡大防止策を実施したが、平成29年2月にインフルエンザ感染症が施設内で発生し、集団感染を引き起こし、結果として関連死を招くこととなった。

このことを受け、感染症対策に不備等が無いかを、感染症対策委員会以外の運営会でも再検証し、対策のさらなる強化に努めた。

3. ショートステイ（短期入所生活介護）

利用者が在宅での生活を継続できるよう、また、特養の補完機能が図れるよう、利用者の理解を求めながら実施した。また、実施に際しては、在宅での生活状況の把握、家族の介護力向上支援、意向把握に努めるため、担当職員と家族との連携強化に努めた。

4. 処遇

職員全体が老人福祉法の基本理念と介護保険法の目的を十分理解し「利用者の自立（自律）支援」「尊厳の保持」に努めた。

日常の業務の流れの中で、毎日「申し送り」と「引継ぎ」を行い、ミーティングの場で全般的な連絡事項についてそれぞれの担当から報告と当日のケアの実施事項について確認を行っている。

ケアプランの実行について、個人毎にADLの向上はもとより、施設生活の充実に努めるため、介護支援専門員が中心となり、ケアプランの立案、作成、実施状況把握、そして見直しなど、ケアカンファレンスを通じ日常業務の中で積極的に取り組んだ。

また、日常の処遇については、介護職員が中心となり、個々の利用者の状況に応じた介護及び、ケアプランに基づいた介護を実施した。その際には、看護職員や栄養士など各部署協力体制のもとで処遇に対応した。

行事関係では、感染症流行時期での中止はあったものの、年間を通じ、ボランティア団体の協力により、毎月の誕生会、花見、よしうみバラ公園遠足、ソーメン流し、夏祭り、運動会、餅つき、定期的な「喫茶の日」、「舞踊」等、多彩な催し物を開催することができた。

5. 健康管理

利用者は看護職員による毎日の健康管理を実施すると共に、定期的な嘱託医による回診、随時の回診を行い健康管理に努めた。要観察者については、看護職員を中心に、介護職員・生活相談員・介護支援専門員など各部署が連絡を密にして状態観察と急変時対応の徹底を図った。病状によっては、家族の意向、嘱託医の指示により専門検査受診、入院措置も行った。歯科については、森田デンタルクリニックの協力で、口腔ケアを行った。また、眼科については、たくぼ眼科より月1回の定期診察をしてもらっている。

6. 栄養管理

食事は基本的ケアの一つであるとともに、生活の楽しみの一つでもあることから、安全で楽しくおいしい食事提供ができるよう、毎月1回、施設側と業務委託先の栄食メディックス株式会社による給食検討会を開催し意見交換及び業務改善、栄

養管理に努めた。

提供される食事に関しては、栄養面や食べやすさはもとより、どのような提供形態でも目で見て楽しめるよう「ソフト食」の実施に努めた。

毎月開催の誕生会は季節感のある献立とし、利用者は食事を楽しむことができた。食事介助については、利用者の個々のペースを大切に介助に努めた。

7. 家族との交流

家族会の結成により、積極的な面会の受け入れや各種行事の参加要請を行い、施設に入所していても家族や地域との交流を途切れさせないように努めた。

8. ボランティアの受け入れ

各種ボランティア団体の受け入れを積極的に行い、介護の補助的なボランティア活動と各行事への参加ボランティア活動により、入所者が楽しめる行事作りや、はかた寿園の円滑な運営のサポートをしていただいた。

9. 防災訓練

防火訓練、避難訓練を年2回実施し、自動火災通報受信機、火災通報装置、排煙装置、消火器、消火栓等の基本的操作を習得すると共に、避難場所、避難経路、避難誘導指示等の体制を再確認した。

10. 職員

法令順守に関して啓発するために、職員連絡会等での啓発などを行った。また、親睦会等を行うことにより、連帯感や帰属意識の醸成に努めた。

専門知識向上及び職務意欲の向上のために、愛媛県老協及び東予地区老協主催の職種別研修会や、愛媛県及び愛媛県社協主催の専門的な研修に積極的に参加した。

更に、職員の意識の改革及び介護レベルの向上の為に、近隣施設との連携を深め、先進的な取り組みを行う施設との意見交換などにも努めた。

また、職員自ら業務改善などに取り組むため、グループごとにグループ会を毎月1回、グループ代表者等によるリーダー会を毎月3～4回のペースで開催した。特に、各部署の代表者による施設運営に関する運営会議を毎月2回のペースで開催し、各職種での連携の強化及び問題の共通理解と共有に努めた。

11. 職員の健康管理

年1回の定期健康診断を受診した。(夜勤を伴う介護職員は年2回)

職員全員インフルエンザワクチンの予防接種を行い、施設内感染の予防に努めた。特に夜勤明けの休日有効利用による休養、静養の徹底を指導した。

12. 資金収支

資金の収支については、平成28年度資金収支予算書に基づいて適正に執行し、社会福祉法人の「会計基準」に沿って会計処理を行った。

13. 伯寿ニュースの発行

随時発行することにより、はかた寿園での利用者、家族、職員の相互交流と施設運営の情報を公開した。また、毎月“ほっこり”と称して園内の出来事や利用者の生活を紹介し、家族や面会に来られた方に好評です。

14. 地域社会貢献事業

今治市社会福祉協議会地域福祉課からの依頼により、平成28年度福祉教育推進事業の一環として、伯方中学校における福祉体験学習事前講演会において高齢者福祉について講演を行った。また、県立伯方高等学校の福祉社会基礎コースで、福祉・介護の資格取得へのルートや、福祉・介護についての仕事を紹介する授業を実施した。